

2026年6月の振り返り&今後のポイント

YMfg | ワイエムアセットマネジメント

商号等 ワイエムアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第44号
加入協会 一般社団法人資産運用業協会

- 本資料は、情報提供を目的としてワイエムアセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を推奨・勧誘するものではありません。
- 本資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- 本資料に掲載されている当社の意見ならびに予測は資料作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。また、本資料は当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。本資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを示唆あるいは保証するものではありません。
- 本資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 本資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。

2026年6月の振り返り

中東緊張とAI期待が交錯した月

市場	変動要因 等
債券（金利）	<p><u>米国債券は下落（金利は上昇）</u> 米国とイランの停戦合意が近いとの報道を受け、中東情勢の緊張緩和期待から原油価格が下落し、インフレ懸念が和らぐ場面もありました。ただし、ウォーシュFRB（連邦準備制度理事会）議長のインフレ抑制姿勢を背景に、高金利が続くとの見方が残り、月を通じては金利は上昇しました。</p> <p><u>国内債券は下落（金利は上昇）</u> 日銀による利上げ観測が続いたことに加え、財政リスクも意識され、金利は上昇しました。</p>
株式	<p><u>米国株式市場は下落</u> 利上げ観測の強まりで株価の割高感が意識されました。さらに、AI（人工知能）投資を進める大手クラウド企業では投資回収への警戒が広がり、相場の重しとなりました。</p> <p><u>国内株式市場は上昇</u> AI・半導体関連への物色に加え、円安が輸出関連企業の業績期待を支えました。日銀の利上げ観測は重しとなったものの、円安や成長分野への期待が相場を下支えしました。</p>
リート	<p><u>海外リートは上昇</u> 原油価格の下落を受けて米金利上昇への警戒が和らぐ場面があり、金利感応度の高いリートに見直し買いが入りました。</p> <p><u>国内リートは下落</u> 国内金利の上昇懸念が重しとなる一方、相対的な割安感に着目した買いもみられ、強弱感が交錯する展開となりました。</p>
為替	<p><u>為替相場は円安ドル高</u> 政府・日銀による円買い介入への警戒は残ったものの、ウォーシュFRB議長のインフレ抑制姿勢やFRBの独立性を重視する姿勢がドル買いにつながりました。</p>

今後のポイント

◎米国の金融政策：インフレ再燃と政策運営の見直し

- 原油価格の下落により、過度なインフレ懸念は後退しています。一方で、AI関連投資の活況を背景とした**メモリー価格の上昇**や、堅調な労働市場を背景とする**賃金上昇圧力**はなお残っており、インフレ圧力がどの程度残るかが引き続き注目されます。
- 消費者物価指数はFRBの目標である2%をなお上回っており、市場では**年内の利上げ観測**が残りやすい状況です。
- また、ウォーシュFRB議長は、**FRBのバランスシート縮小**や**フォワードガイダンスの見直し**に前向きな姿勢を示しています。これらは、FRBのインフレ抑制姿勢を明確にすることで**期待インフレの低下につながる可能性**がある一方、流動性の縮小や市場との対話姿勢の変化を通じて、金融環境の引き締まりが意識される要因にもなり得ます。

◎日本の金融政策：円安・物価と追加利上げの時期

- 日本では、企業マインドや設備投資計画の底堅さが確認される一方、**円安による輸入物価の上昇圧力**が意識されています。
- 日銀の追加利上げ時期をめぐっては、急速な利上げによる景気への影響を警戒する見方もあり、市場では12月利上げを中心にみる向きが優勢です。
- ただし、**為替相場が一段と円安方向に進む場合**には、日銀が市場の**想定より早く利上げに踏み切る可能性**にも注意が必要です。円安が物価上昇圧力を強めるなかで対応が遅れば、**金融政策が後追いになるリスク**が意識されやすくなるためです。

◎AI相場：設備投資ブームと信用リスク

- AI関連株は、ハイパースケーラーの巨額投資やメモリー需給の引き締まりを背景に上昇してきましたが、7月はその持続性が問われる局面です。
- AI投資の収益化が遅れば、**大型資金調達や設備投資計画への期待が後退**し、半導体株だけでなく**クレジット市場にも影響**が広がる可能性があります。
- また、メモリー価格の上昇はメモリーメーカーの利益を押し上げる一方、**最終製品メーカーにはコスト増として波及**します。その結果、**需要抑制につながるリスク**もあります。
- 今後は、AI関連企業の決算、ハイパースケーラーの投資計画、大型資金調達の成否、クレジットスプレッドの動きが、AI相場の温度感を測る重要な手掛かりとなりそうです。

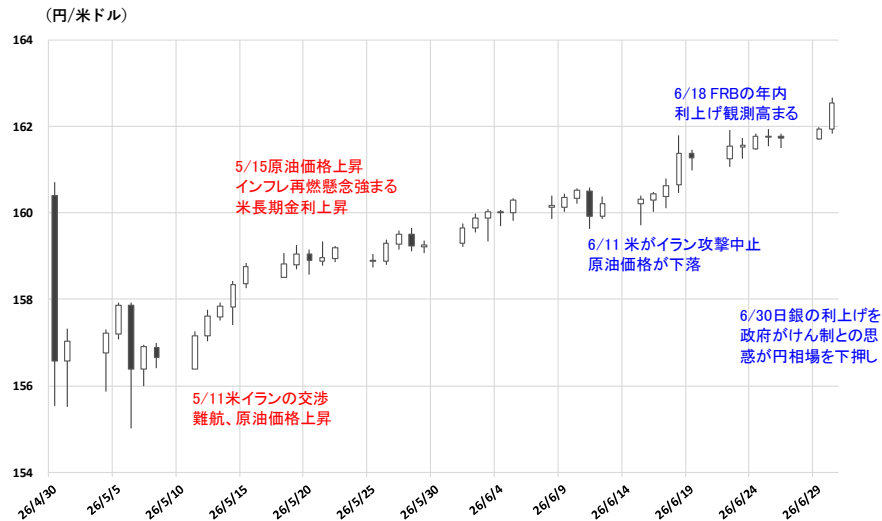
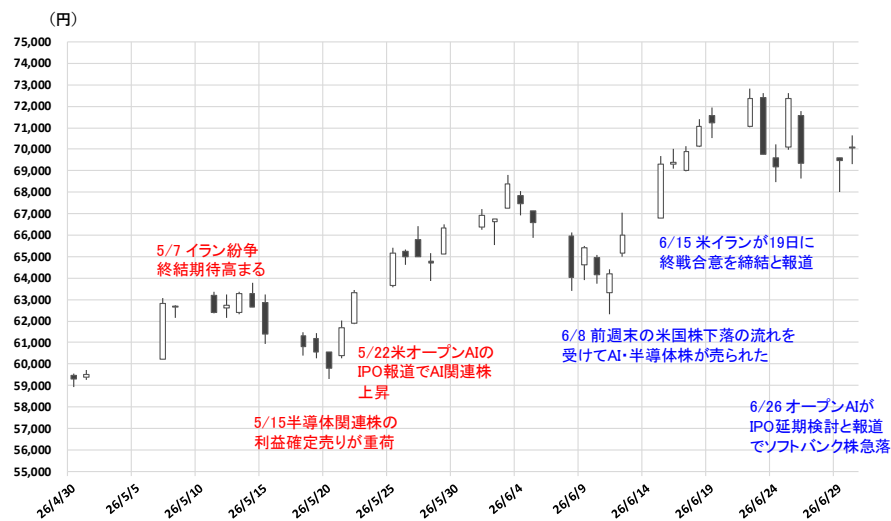
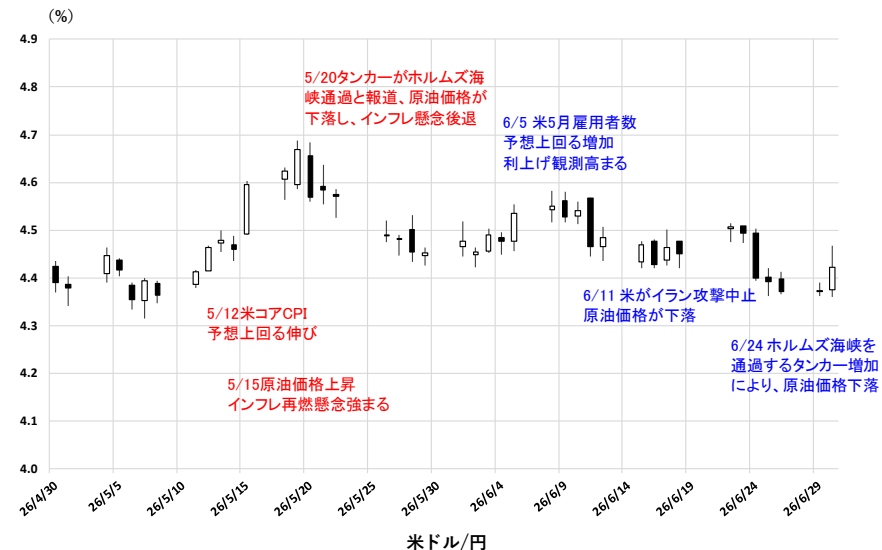
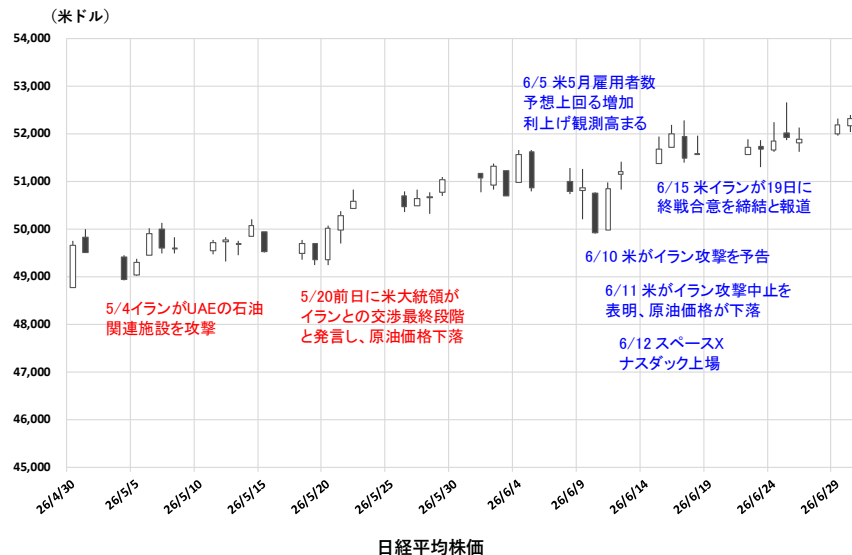
主な相場変動要因

(2026年4月末～2026年6月末)

【相場変動要因】

NYダウ

米国債10年利回り



(出所) LSEGよりワイエムアセットマネジメント作成

※上記は過去の情報であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。